

自民・公明などが 否決！

別府市民への影響は？

- ◆ 要支援 1・2 のヘルパー、デイサービス利用者の 2,088 人が介護保険からはずされます。
- ◆ 65 歳以上の高齢者のうち約 5,000 人の利用料が 現行の 1 割から 2 割に増やされます。

国の計画は、①要支援 1・2 を介護保険からはずし、市町村の事業に移す、②所得 160 万円以上の方の利用料を 2 割にする、というものです。

これが実行されたら、市町村により格差が広がるだけでなく、介護が必要な人でも介護サービスが受けられない「介護難民」が増えます。

安倍自民・公明政権は、「社会保障改革」と称して、介護保険制度を大幅に悪くしようとしています。

日本共産党議員団は、12 月の市議会に、国に対して「改悪中止を求める意見書」を提出しましたが、自民、公明などの反対多数により否決されました。

選挙前の議会では

- ▶ 2011 年 3 月の議会では、平野市議の質問に対して「行政のムダを省きながら、国保税等の負担を軽くしていきたい。そこには一般会計の繰り入れということも含めて検討することも指示させていただいております」と答弁していました。

ところが選挙後は

- ▶ 最高限度額を 69 万円から 77 万円に 8 万円引き上げ、その増収分を財源に所得割率を 17.0% から 16.6% に 0.4% 引き下げただけ。平等割と均等割は変化なし。つまり国保会計のやりくりをただけで、一般会計からの繰り入れによる引き下げは実行されていません。

「来年度は任期最後の年。国保税の負担軽減は実行するのか」という平野市議の質問に対して、浜田市長は明確な答弁をしませんでした。

「公約は選挙のときの方便」———こんなことは許されません。しかしなぜ、他の党は、市長に対して、公約実現を求めないのでしょうか。

市長さん！

「国保税の負担軽減」の公約はどうなるのですか？

日本共産党 別府市議員団

げんきコース

発行責任者 平野 文活
別府市石垣西 8-2-31

2014.1.25

No.588

あなたのご意見をお寄せください。
また、お困りのことなどお気軽にご相談下さい。

TEL. 0977-222-6576
FAX. 0977-223-6529



平野 ふみかつ



えんど 久子

日本共産党 長年要求し実現

わくわく建設券

もっと 使いやすく

21倍もの経済効果

日本共産党は住宅リフォーム助成制度を長年求め、昨年 4 月から 10% のプレミアムがつき建設関係の工事に幅広く使える B E P P U わくわく建設券が実現。約 6 1 0 0 万円の税金を使い、約 13 億の経済波及効果があ

隅々までいきわたる制度に

えんど市議は「手続きがややこしい。手続きの簡素化や業者への完納証明を廃止するなど改善すべき」と質問。しかし「継続なので条件は変えられない」と言いますが、えんど市議は「プレミアム商品券の条件を変えたことがある。できないことはないのでは」と迫りま

また、平野市議は「登録制をやめ、建設券方式でなく幅広い業者が参加できる制度に改善すべき。来年度こそ必要だ」とがえんばりましたが「検討する」との答弁です。

改善に向け今後とも一緒にがんばりましょう。

市民ニーズに早く応えよ

4 億 5 6 0 0 万円あまりを基金に積み立てる提案について、えんど久子市議が質問。交付金を全額いっ

えんど久子市議は「でこぼこ道路の改修や児童クラブの整備など、市民ニーズは山積している。今年度中にできるものもあるはず。基金が増えているが、各課とよく協議して、少しでも早く市民ニーズに応えようという姿勢が必要だ」と指摘。

デコボコ道路の改善を

平野ふみかつ市議は「別府の道路はデコボコで、業者への指導を改めるべき」と質問。「10 月から規則を改め、道路の埋め戻しの指導も強化している」と答弁がありました。これは昨年 6 月議会でもえんど市議が指摘したことなどに比べ、改善されたものです。

また、平野市議は原交差点から斜めに明礬方面にぬける道路の改善について、「選挙前の市長と語る会で要望があり市長が約束したのに、昨年 11 月の市民と議会との対話集会でも同じ要望があった。なぜできていないのか」と指摘。「事業化に向け努力したい」と答弁がありました。

猿渡(えんど)久子市議の12月市議会報告

放課後児童クラブの充実を

えんど市議は「大分市では児童クラブの保護者負担金の減免制度があるが、別府市でも作るべき。にこにこ保育支援事業を認可外保育園ふくめ拡充し、保育所

大分市にある減免制度を別府でも

の保育料の第2子半額などを行うべき」と求めました。今後実現に向けがんばります。

えんど久子市議は、特に放課後児童クラブの環境改善を求めました。市内22クラブでニーズにこたえて子どもたちを受け入れていますが、面積定員を超えた児童数の所が9クラブあります。えんど久子市議は「低学年では学校で過ごす時間よりも児童クラブの時間の方

急いで環境の改善を

日本共産党の猿渡(えんど)久子市議は、一貫して子育て支援の充実を求めてきました。12月市議会でも保育所や児童虐待防止の充実などを求めました。



学校の先生やスタッフの充実を

えんど久子は12月市議会一般質問で、教職員の増員や学力向上、地域の教育への参画などについて質問しました。学校のいきいきプラン(支援員)や図書館司書、スクールサポーターの増員が必要だと、えんど市議。この質問に、浜田市長は「どの職種も重要だ。増員に向け今後もしっかり努めていきたい」と答弁しました。えんど市議は、来年度からの増員を重ねて求めました。

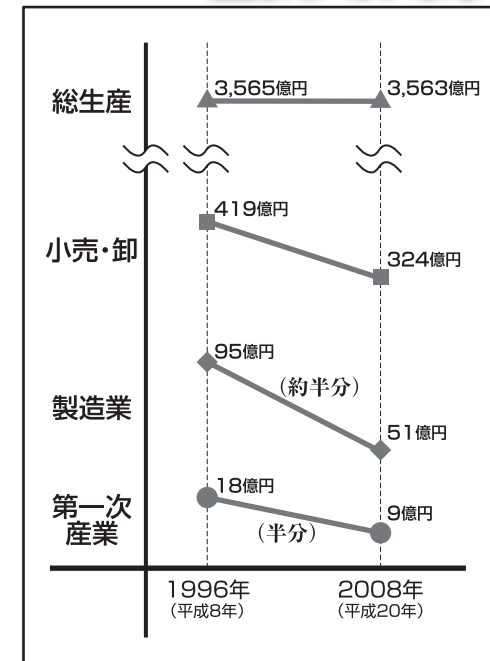
バリアフリー観光を

体験型のバリアフリー観光が各地にひろがっています。温泉観光都市別府としては、障がいがある方も温泉を楽しんでいただけるような観光をすすめるリードすべきと、えんど久子市議は質問。「別府市も誰もが楽しめる観光地をめざす。今後、関係課との協議を行い、ハード面ソフト面含めた課題の整理に努めたい」と観光課長が答弁。市職員への啓発や意識改革の重要性について、「共に生きる条例(障害がある人もない人も安心して安全に暮らせる条例)への理解を深めるため、職員への研修・啓発を行う」と福祉保健部長より、「コーディネートできる適した人材の配置が必要だ」と総務部長より答弁がありました。

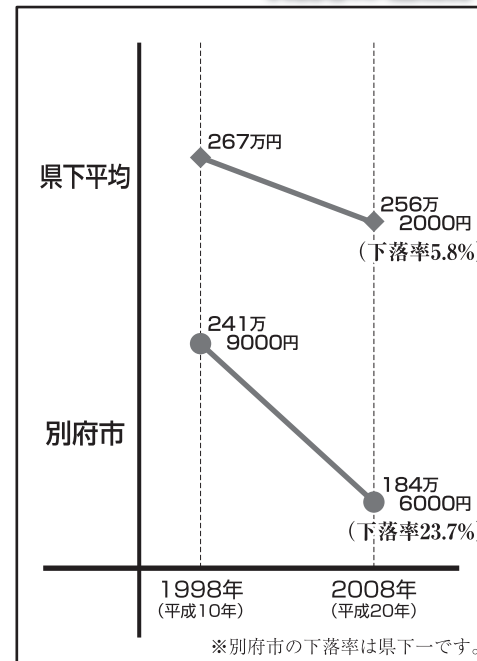
地元業者を育てる行政に転換を!

平野市議はこれまでも一貫して、下の資料などを紹介しながら、行政の転換を求めてきました。

別府市の経済成長は止まっています

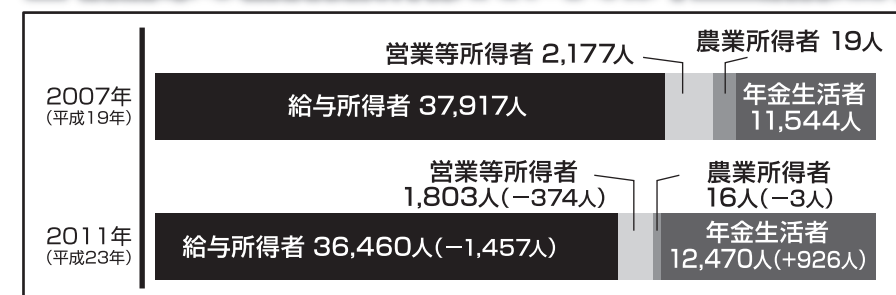


市民一人当たり所得は激減



昨年10月、平野市議は議会の視察で静岡県富士市の「産業支援センター」を訪問しました。そこでは地元企業を育てることに真剣に取り組んでいました。平野市議は「この取り組みに学び、別府市も発想の転換が必要だ」と、強く求めました。

別府市の納税者数(増えているのは年金生活者だけ)



◆年度末になると市幹部が手分けして税の滞納一掃にとりくみます。平野市議は「それも必要だが、市幹部が日頃から手分けして、地元業者のナマの声を聞く全事業所実態調査を」と求めてきました。が、市はなかなか動きません。

◆ゆめタウン誘致の目的は「周辺商店街との共存共栄」でした。平野市議は「実際にそうになっているか実態調査を」と求めてきましたが、市は動きません。

◆富士市産業支援センターの責任者・小出氏は「これまでの経済政策が成功していない。抜本的な発想の転換が必要という認識を行政がもつことが、地域再生の出発点」企業誘致に頼るより、地元企業百社が一人づつ百人の雇用を」と指摘しています。